

2022・9

柏の景気情報

令和4（2022）年9月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和4年9月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

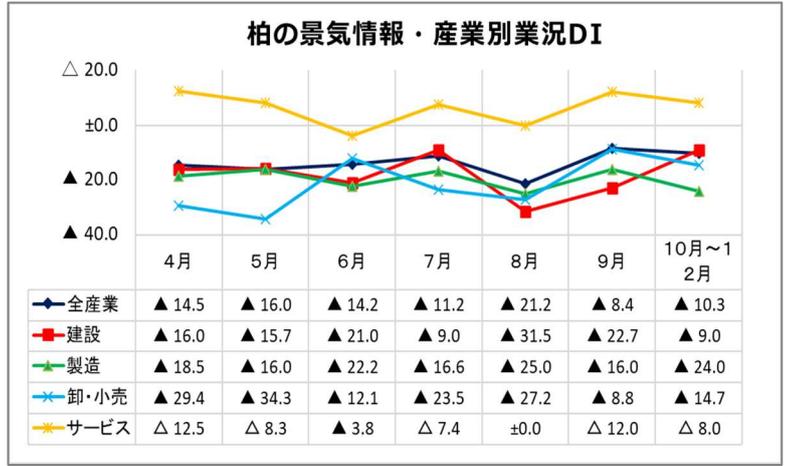
調査期間: 令和4年9月26日～10月5日 調査対象: 柏市内151事業所及び組合にヒアリング、回答数106

全産業DIは大幅に改善。資材や光熱費等の高騰による採算悪化、世界情勢の懸念や円安等の長期化で先行きは悪化の見通し

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.4(前月水準▲21.2)となり、マイナス幅が12.8ポイント縮小した。

9月は全業種でDI値が改善。プラスの値のサービス業では、空き家の売却・管理、相続の引き合い増加、イベント・レンタル予約増加について不動産業からコメントがあった。また、卸小売業では、人の流れの活発化やペイペイポイント還元キャンペーンによる売上増加のコメントがある一方、台風による客数減少、天候不順による作物の生育不足についてコメントが寄せられた。

先行きDIは▲10.3(今月比▲1.9)で、資材、光熱費等高騰や世界情勢の懸念、円安の長期化で悪化の見通し。



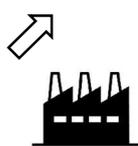
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「コロナ拡大に伴うエンドユーザーの景気後退を受け、民間工事が減少。今になって買い控え等が影響している。また、コロナで情報交換や挨拶ができない状況も大きく響いている」(塗装工事)、「畳小物のネット注文に感謝」(畳)、「単価の値上げを元請けに依頼するも数社しか対応がない。人手不足も解消できない」(とび)



製造業

「電気、ガス、原料高が継続。値上げを実施しているが追い付かない。1パック当たりの重量減の商品もあり、生産性も落ちている」(畜産食品)、「燃料、原材料等の上昇で利益率が低下」(機械・同部品)、「コロナ第7波の影響はあったが、10月の値上げ前の仮需が補った形に。来月はその分出荷数量の減少が見込まれる。エネルギー高騰や原材料高騰、円安等は終息しないと思われ厳しい状況」(酒類)、「原材料費分の値上げは認められるが、加工費や人件費、その他経費分の価格転嫁が認められない。材料費分だけでは利益どころか定期昇給や賞与等に対応できない」(金属製品)、「10月より最低賃金が上がるため人件費は確実に増える。効率よい仕事に従業員間のコミュニケーションは欠かせず、健康経営もからめて「私の健康宣言」を掲示」(金属製品)



卸・小売業

「人の動きが活発化し、お出掛け着など秋物衣料は好調。3連休は台風の影響で大きく客数減。売上伸長も、電気代等の高騰が利益を圧迫」(大型小売店)、「テナントでは在庫管理体制の見直しによる利益体質への変革が見られるが、着手に差がある。SDG'sへの取組みで、商品開発やサステナブルな原材料にコストがかかっている」(各種商品小売)、「人流増加傾向で被服・雑貨中心に好調も、2週連続の台風が水を差した」(百貨店)、「飲食店や繁華街の顧客に対しコロナの影響は下げ止まり。近場の観光地等は好調で、マイクロツーリズム関係は良いのかも。売上は維持できて、包装資材など原価上昇で利益が出しにくい」(食料卸売)、「輸出は円安で好調だが、納期の大幅遅延、インフレの影響を受け利益減」(自動車卸売)、「円安で販売価格が上がり、売上増加も利益は微増。世界的な経済の先行きが不透明」(産業機械器具卸売)、「涼くなったことで客足が戻り、客単価も上昇。8~9月はポイント還元によりペイペイ支払が2倍以上に。現金収入減で資金繰りに影響」(ペット用品小売)、「柏市のペイペイ効果で売上上昇」(洋菓子店)、「原材料高騰が深刻。10月からのさらなる値上げに苦慮」(洋菓子店)、「天候不順で作物の生育不足、商品不足が影響」(各種食料品小売)



サービス業

「空き家の売却・管理の相談や、相続に関する引き合いが増加。購入希望のお客さんもコンスタントに入っている。資材高騰は建築費の上昇に影響」(不動産管理)、「お祝い等の家族利用の問合せは増えているが、会社関係の利用は先行き見えず」(日本料理)、「小学生の国語力の低下が気になり、昨年度から論理国語講座を作ったところ、最近少しずつ受講者が増えてきた」(学習塾)、「イベント・レンタルの仕事予約が入りだした」(不動産代理業・仲介)、「今後、海外政情に影響を受ける可能性がある」(土木建築サービス業)、「光熱費、消耗品、耐久消費財の上昇が予想以上で進んでいる。当社も値上げを行うが客離れが起きないか不安である」(ゴルフ練習場)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲8.4に対し、「CCI-LOBO」が▲23.3で、柏の方がマイナス幅が14.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は全てであり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.4	 ▲ 22.7	 ▲ 16.0	 ▲ 8.8	 12.0
CCI-LOBO	 ▲ 23.3	 ▲ 28.7	 ▲ 23.3	 ▲ 31.9	 ▲ 11.4
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 2.8	 ▲ 36.3	 4.0	 11.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 5.8	 ▲ 21.6	 1.2	 ▲ 14.3	 3.9
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.9	 ▲ 31.8	 ▲ 24.0	 ▲ 20.5	 8.0
CCI-LOBO	 ▲ 27.4	 ▲ 35.3	 ▲ 33.5	 ▲ 27.5	 ▲ 17.9
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 67.9	 ▲ 68.1	 ▲ 96.0	 ▲ 67.6	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 76.8	 ▲ 88.9	 ▲ 82.3	 ▲ 73.7	 ▲ 66.7
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.9	 27.2	 12.0	 14.7	 20.0
CCI-LOBO	 17.4	 32.0	 10.8	 12.5	 20.8
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.0	 ▲ 18.1	 ▲ 16.0	 ▲ 26.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.7	 ▲ 12.0	 ▲ 17.3	 ▲ 25.1	 ▲ 19.1

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：2022年9月13日～20日

調査対象：全国の331商工会議所が2,559企業にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、円安急伸でコスト負担が増加し、悪化。先行きは、物価上昇に歯止めがかからず、厳しい見方

9月の全産業合計の業況DIは、▲23.3と、前月から▲2.3ポイントの悪化。高騰が続く資源・原材料価格に加えて、電気代のさらなる値上がりや、140円台まで進んだ円安の急伸による輸入品の価格上昇など、企業のコスト負担は増加し続けており、全業種で業況が悪化した。さらに、サービス・小売業では物価高による消費マインドの低下、建設業では人手不足対策としての

人件費増加が業況を下押しした。製造業では部品の供給不足、卸売業では台風等の天候不順による物流コストの上昇が業況を下押しした。感染状況が落ち着き、人流も回復基調にあるものの、増加し続けるコスト負担が企業経営の重荷となり、中小企業の景況感は2カ月連続の悪化となった。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.7(今

月比▲0.4ポイント)と悪化を見込む。全国旅行支援の再開や水際対策の緩和による客足回復の期待感が小売業・サービス業で広がる一方、物価高による収益圧迫を危惧する声が聞かれた。業種を問わず、物価上昇によるコスト増に対する十分な価格転嫁も行えていない。欧米のインフレ対策で世界経済の鈍化が顕在化する中、円安や物価上昇に歯止めがかからず、さらなるコスト負担増の懸念から、中小企業の先行きは厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「工事の受注段階で、今後の建設資材の値動きを予想することで、利益の確保に努めている。一方で、従業員の高齢化は依然として課題であり、ホームページ

の改良や工業高校へのアプローチによる人材確保で人手不足の解消と組織の若返りに繋げたい」「(一般工事業)、「円安の進行もあり、資材価格の高騰に歯止めがかからない。即座の販売価格への転嫁はできないため、収益を圧迫している」(防水工事業)

【製造業】「受注数は増えてきており、生産量を増やしている。しかし、製造にかかる燃料費の高騰、原材料の値上げとコストが増加しており、今までのような利益率の確保が難しくなっている」(金属製品製造業)、「半導体や電装品の調達が困難で、生産計画の見直しを実施している。生産性が低下しているため、IT化などの効率化が必要である」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「輸送費などのコスト負担が増える中、物価高による個人消費の冷え込みで取引先の小売店からの受注数も減少傾向である。海外向けの輸出は堅調に推移しているが、今後の世界経済の動向によつては、今まで以上に厳しい状況になることが危惧される」(食料・飲料卸売業)、「輸

送費やコンテナ代の高騰が収益を圧迫する中、天候不順による青果物の価格上昇や物流コスト増も重なり、経営が安定しない」(農畜産水産卸売業)

【小売業】「感染状況の落ち着きで、観光客などは少しずつ戻ってきている。しかし、従来物価高により消費者の生活必需品以外の買い控えが見られる中、急激な円安の進行でさらにコスト負担が増えており、経営状況は低迷が続いている」(各種商品小売業)、「物価高で消費者の購買意欲が低下する中、光熱費や人件費なども上昇しており、経費の削減が難しくなっている」(総合スーパー)

【サービス業】「宿泊・宴会・館内レストラン全てで売上は増加。一方で、仕入価格の高騰や電気代の上昇による経費増加で採算は悪化した。コロナ禍で減少した従業員の補填も課題であり、人件費などでさらなるコスト負担が続く見込み」(宿泊業)、「燃料価格の高騰に伴う値上げを実施せざるを得ない状況であるが、同業他社との価格競争が激しく、慎重になつている」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

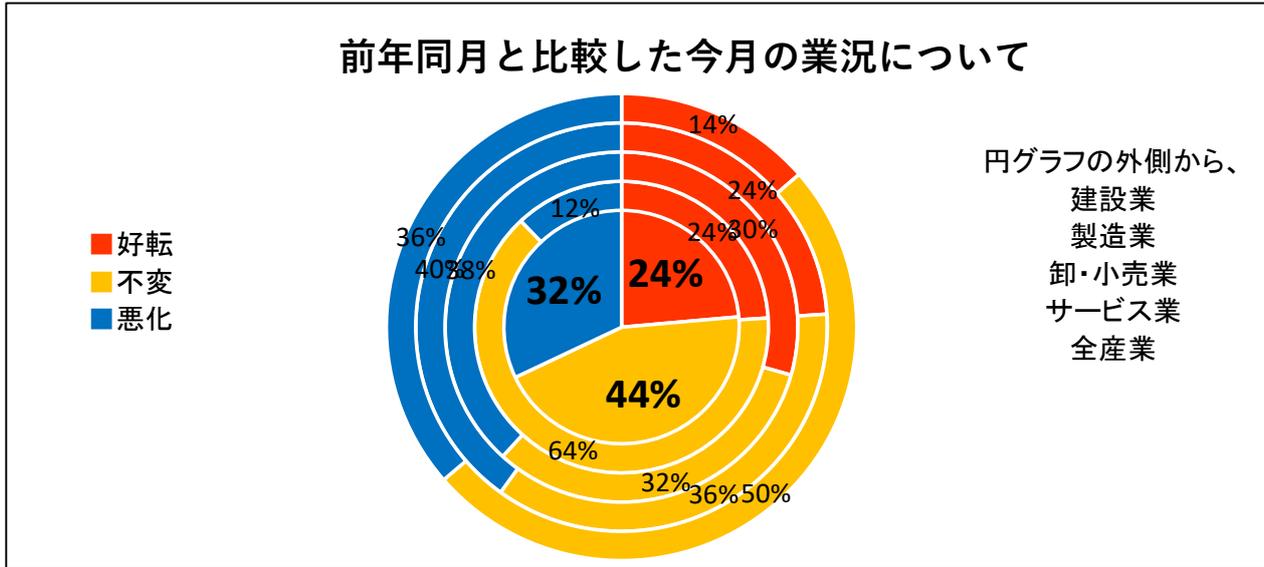
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲25.7	▲27.0	▲17.0	▲28.3	▲39.5	▲21.1
5月	▲20.4	▲31.3	▲15.4	▲20.2	▲31.8	▲9.3
6月	▲20.3	▲29.3	▲19.8	▲22.0	▲32.2	▲4.4
7月	▲17.8	▲28.7	▲17.9	▲18.1	▲25.2	▲4.1
8月	▲21.0	▲26.4	▲18.9	▲24.8	▲30.7	▲10.2
9月	▲23.3	▲28.7	▲23.3	▲27.2	▲31.9	▲11.4
見通し	▲23.7	▲23.7	▲20.5	▲25.5	▲35.1	▲17.1

令和4年（2022年）9月の動向

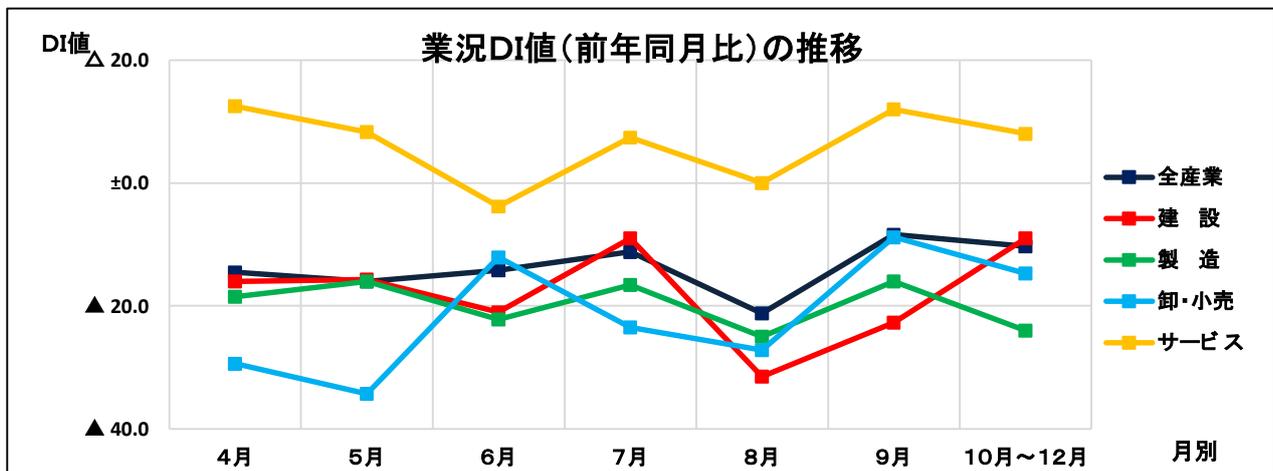
【業況について】

- 9月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲8.4（前月水準▲21.2）となり、マイナス幅が12.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、▲10.3（前月水準▲13.1）となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。



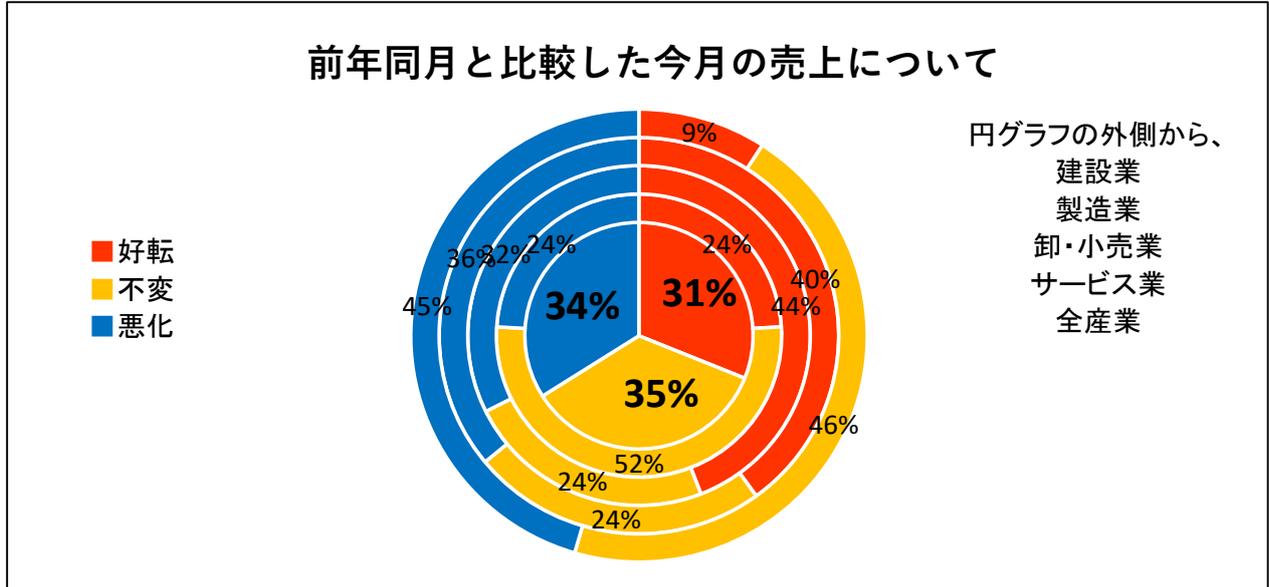
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月（9月~11月）
全産業	▲14.5	▲16.0	▲14.2	▲11.2	▲21.2	▲8.4	▲10.3（▲13.1）
建設	▲16.0	▲15.7	▲21.0	▲9.0	▲31.5	▲22.7	▲9.0（▲15.7）
製造	▲18.5	▲16.0	▲22.2	▲16.6	▲25.0	▲16.0	▲24.0（▲4.1）
卸・小売	▲29.4	▲34.3	▲12.1	▲23.5	▲27.2	▲8.8	▲14.7（▲24.2）
サービス	△12.5	△8.3	▲3.8	△7.4	±0.0	△12.0	△8.0（▲4.3）



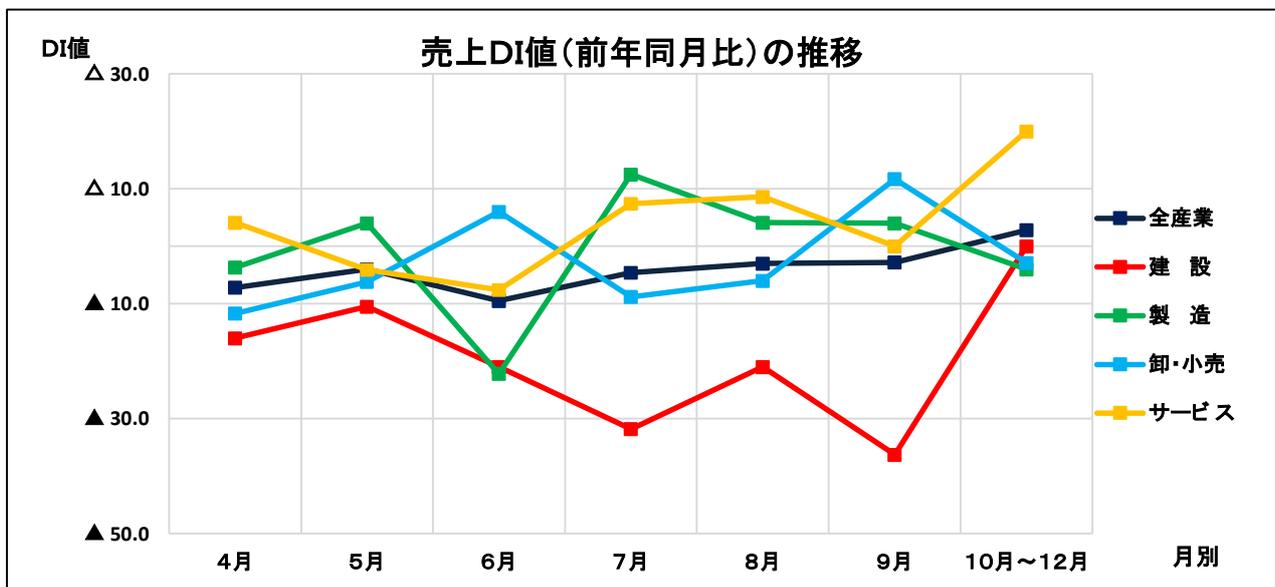
【売上について】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.8(前月水準▲3.0)となり、マイナス幅が0.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.8(前月水準▲7.0)となり、プラス幅が4.2ポイント縮小する見通しである。



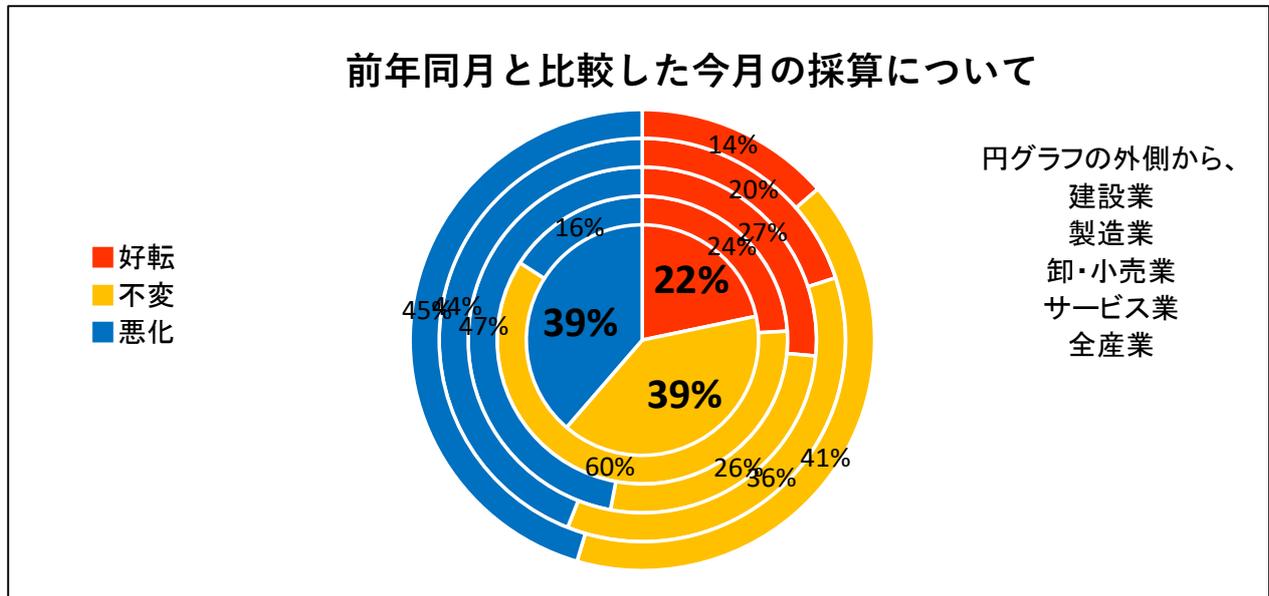
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月(9月~11月)
全産業	▲7.2	▲4.0	▲9.5	▲4.6	▲3.0	▲2.8	△2.8(△7.0)
建設	▲16.0	▲10.5	▲21.0	▲31.8	▲21.0	▲36.3	±0.0(±0.0)
製造	▲3.7	△4.0	▲22.2	△12.5	△4.1	△4.0	▲4.0(±0.0)
卸・小売	▲11.7	▲6.2	△6.0	▲8.8	▲6.0	△11.7	▲2.9(△9.0)
サービス	△4.1	▲4.1	▲7.6	△7.4	△8.6	±0.0	△20.0(△17.3)



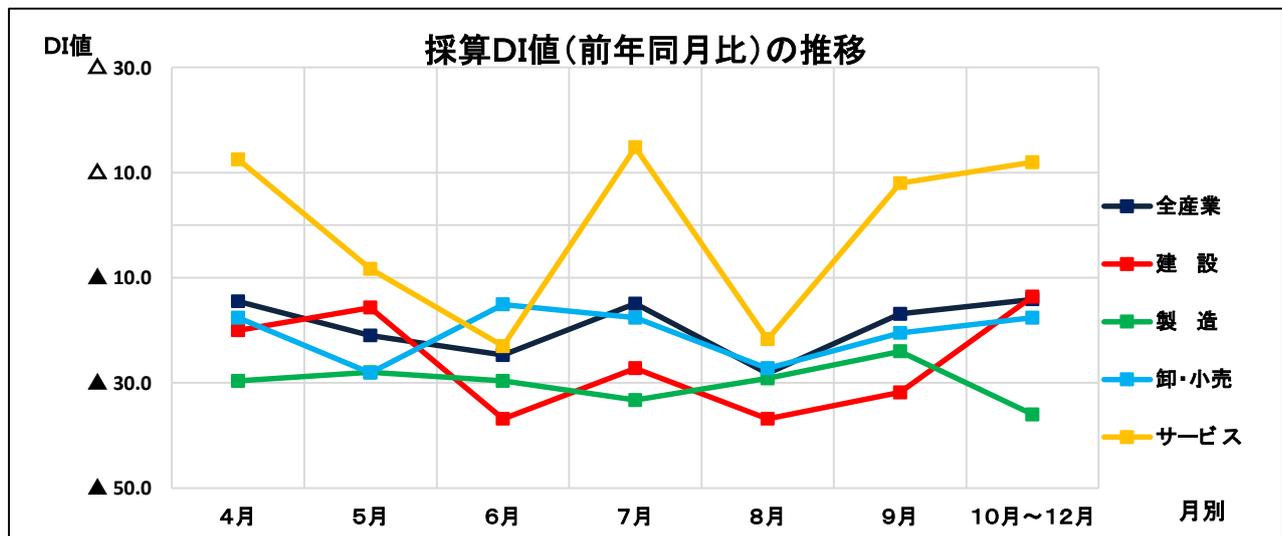
【採算について】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲28.2)となり、マイナス幅が11.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.1(前月水準▲13.1)であり、マイナス幅が1.0ポイント拡大する見通しである。



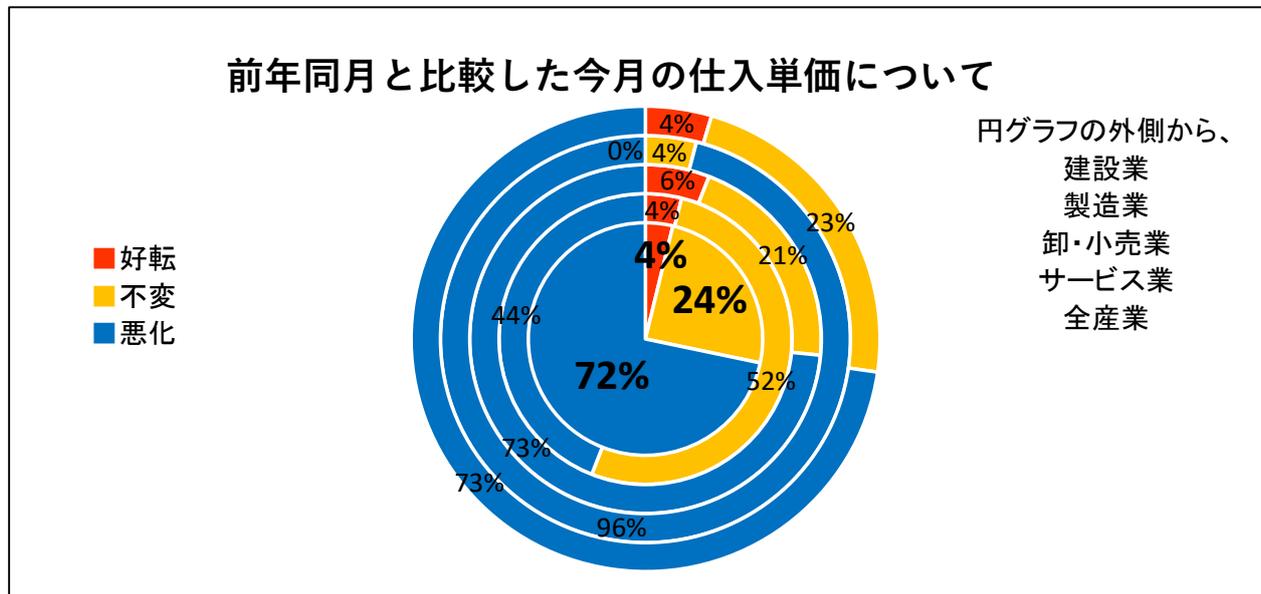
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月(9月~11月)
全産業	▲14.5	▲21.0	▲24.7	▲14.9	▲28.2	▲16.9	▲14.1(▲13.1)
建設	▲20.0	▲15.7	▲36.8	▲27.2	▲36.8	▲31.8	▲13.6(▲15.7)
製造	▲29.6	▲28.0	▲29.6	▲33.3	▲29.1	▲24.0	▲36.0(▲16.6)
卸・小売	▲17.6	▲28.1	▲15.1	▲17.6	▲27.2	▲20.5	▲17.6(▲18.1)
サービス	△12.5	▲8.3	▲23.0	△14.8	▲21.7	△8.0	△12.0(±0.0)



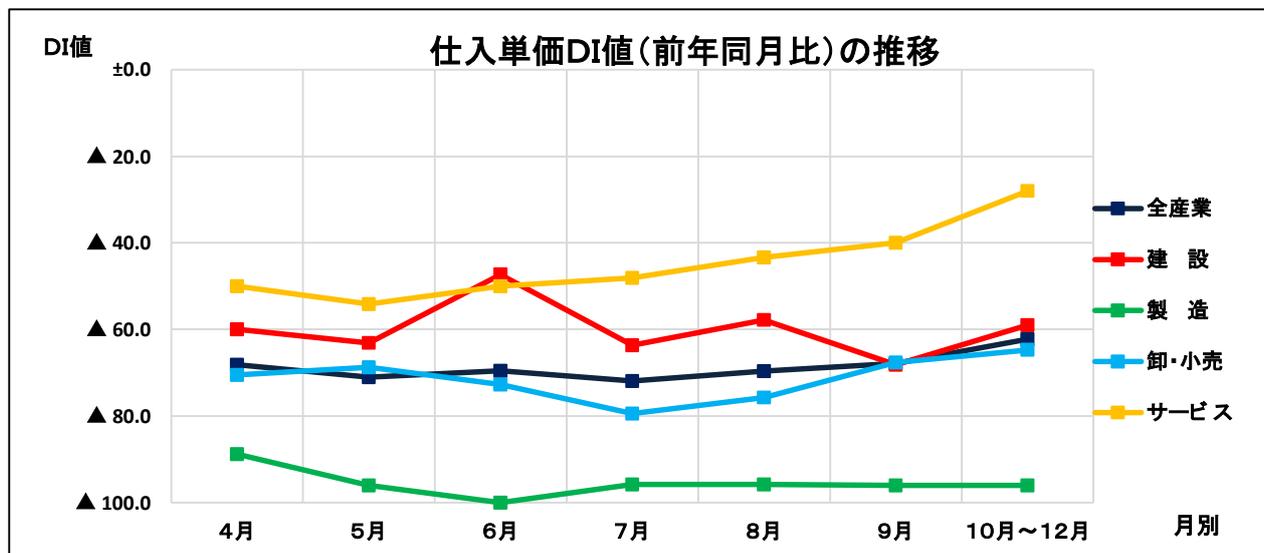
【仕入単価について】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲67.9(前月水準▲69.6)となり、マイナス幅が1.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲62.2(前月水準▲63.6)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

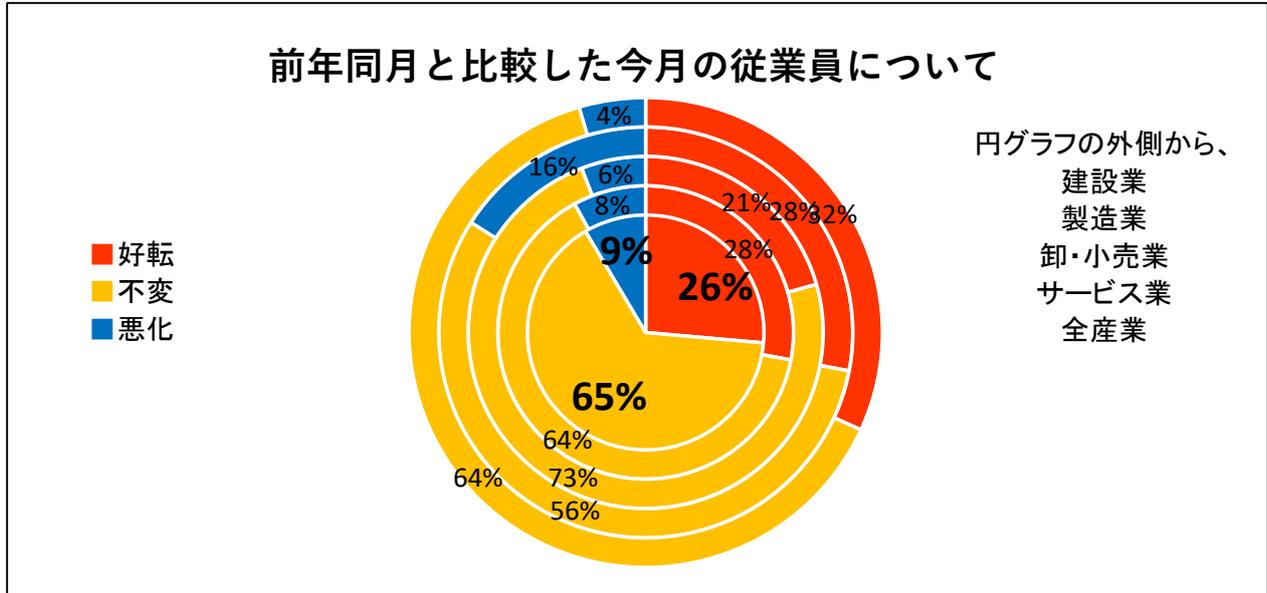
	令和4年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月(9月~11月)
全産業	▲68.1	▲71.0	▲69.5	▲71.9	▲69.6	▲67.9	▲62.2(▲63.6)
建設	▲60.0	▲63.1	▲47.3	▲63.6	▲57.8	▲68.1	▲59.0(▲63.1)
製造	▲88.8	▲96.0	▲100.0	▲95.8	▲95.8	▲96.0	▲96.0(▲75.0)
卸・小売	▲70.5	▲68.7	▲72.7	▲79.4	▲75.7	▲67.6	▲64.7(▲72.7)
サービス	▲50.0	▲54.1	▲50.0	▲48.1	▲43.4	▲40.0	▲28.0(▲39.1)



【従業員について】

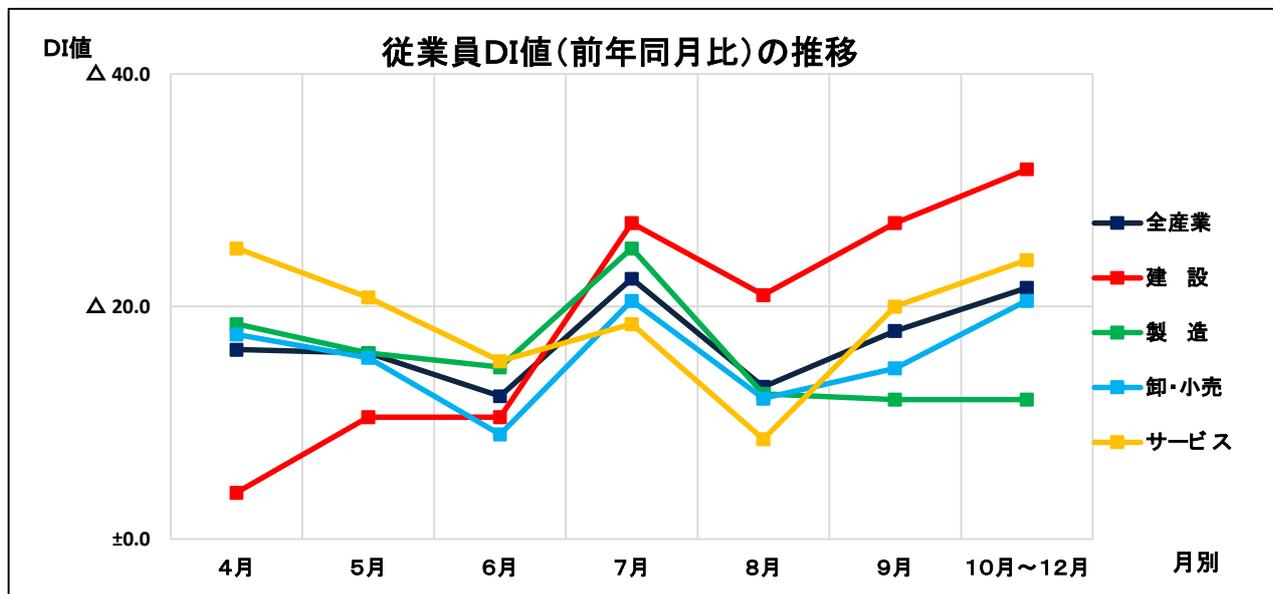
○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△17.9(前月水準△13.1)となり、プラス幅が4.8ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.6(前月水準△18.1)となり、プラス幅が3.5ポイント拡大する見通しである。



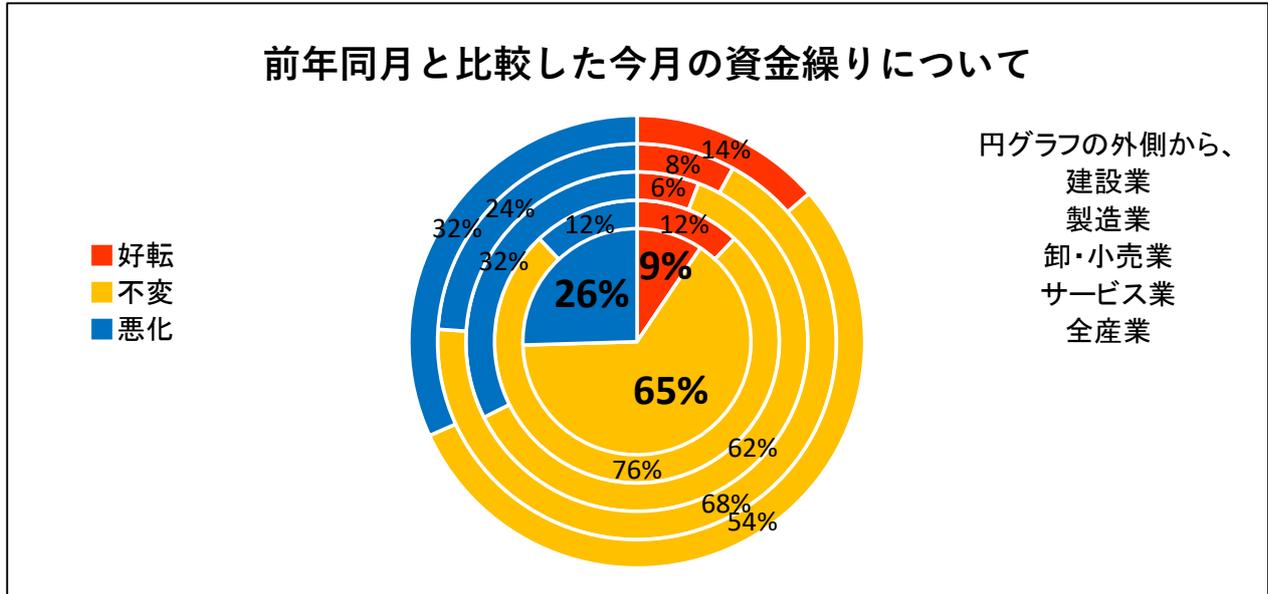
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月(9月~11月)
全産業	△16.3	△16.0	△12.3	△22.4	△13.1	△17.9	△21.6(△18.1)
建設	△4.0	△10.5	△10.5	△27.2	△21.0	△27.2	△31.8(△31.5)
製造	△18.5	△16.0	△14.8	△25.0	△12.5	△12.0	△12.0(△16.6)
卸・小売	△17.6	△15.6	△9.0	△20.5	△12.1	△14.7	△20.5(△12.1)
サービス	△25.0	△20.8	△15.3	△18.5	△8.6	△20.0	△24.0(△17.3)



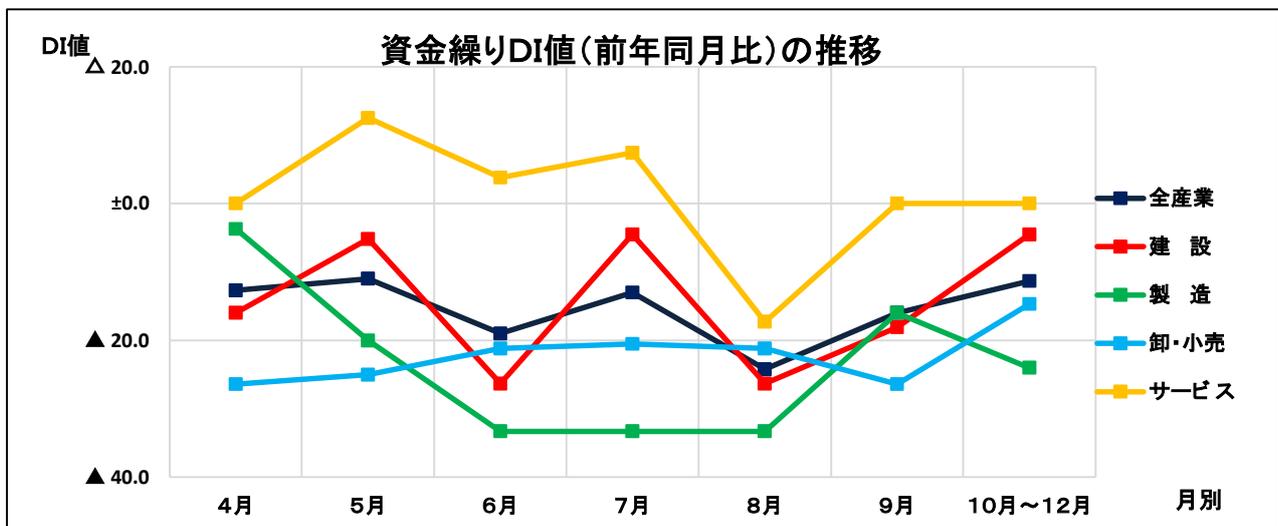
【資金繰りについて】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が8.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.3(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月(9月~11月)
全産業	▲12.7	▲11.0	▲19.0	▲13.0	▲24.2	▲16.0	▲11.3(▲14.1)
建設	▲16.0	▲5.2	▲26.3	▲4.5	▲26.3	▲18.1	▲4.5(▲10.5)
製造	▲3.7	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲33.3	▲16.0	▲24.0(▲25.0)
卸・小売	▲26.4	▲25.0	▲21.2	▲20.5	▲21.2	▲26.4	▲14.7(▲18.1)
サービス	±0.0	△12.5	△3.8	△7.4	▲17.3	±0.0	±0.0(±0.0)

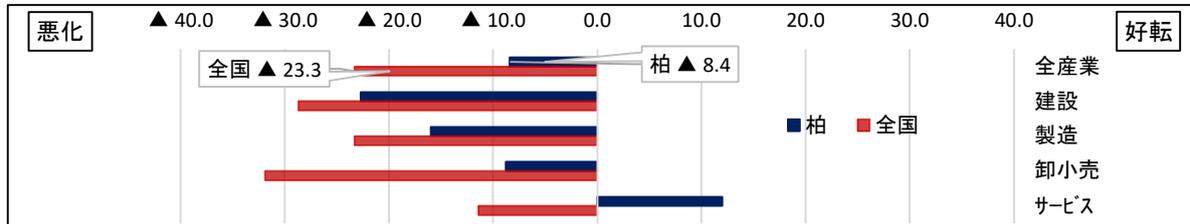


全国 (CCI - LOBO) との比較

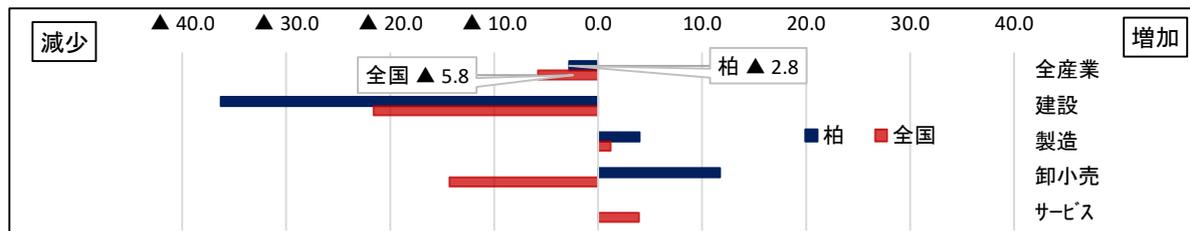
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

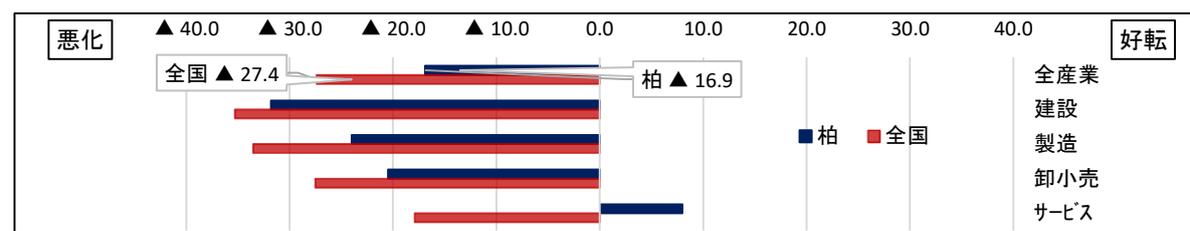
【業況DI】



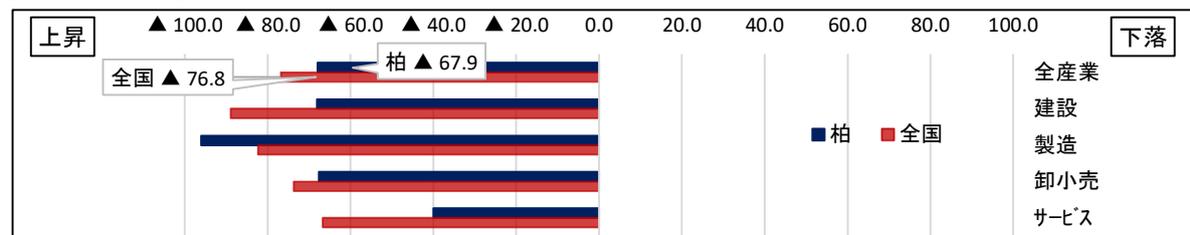
【売上DI】



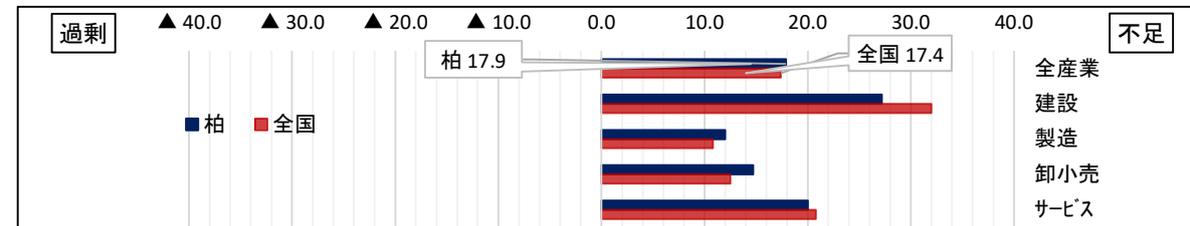
【採算DI】



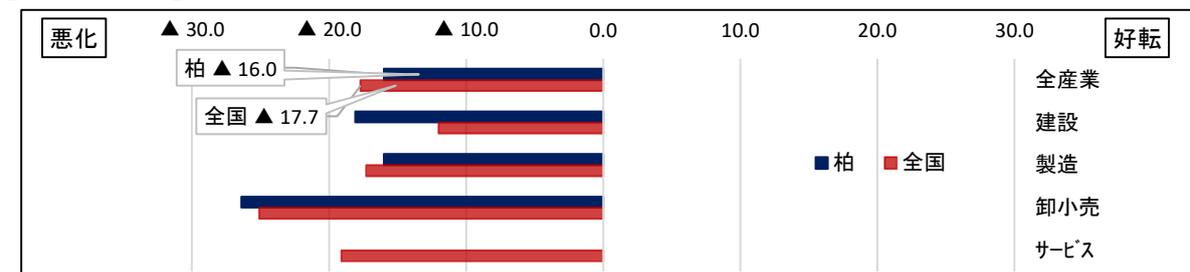
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	業況の悪化は、コロナウイルス感染拡大に伴い、エンドユーザーの景気後退を受け、民間工事の件数が減少していることが原因だと考えられます。これまで建設業は計画しているものが動いてきたが、買い控えなどが起きてそのあおりの影響が今になって出ていると感じます。また、感染対策としてコミュニケーションの場がなくなってしまい、交流ができないことから情報交換や、挨拶などができない状況も大きく響いていると感じます。顔を合わせてコミュニケーションをとり、情報交換などができるように早くすべてがコロナ前の状況に戻ることを願います。	塗装工事業
	人材不足、仕入上昇。	職別工事業
	畳小物がネットを通して注文をいただけるようになってきたことに感謝。	畳工事請負・畳製造販売業
	仕入れ単価の高騰に伴い、単価の値上げを元請け会社に依頼するも数社しか対応がなく以前と同じで、薄利多売的な状況が続いている。人手不足は解消できない。	とび
	建築資材の高騰。物価の高騰。	一般土木建築工事業
製造業	新型コロナの影響で下げ止まったままの口紅容器の受注に回復傾向が一切見られない。医療品容器に関しては回復してきたが勢いに欠ける	プラスチック加工
	依然としてコロナ禍の影響を受けており、また物価上昇の影響もあり、業績は好転する兆しが見えない状況が継続しております。	電子応用装置製造業
	電気 ガス等のユーティリティー、ロシア・ウクライナ紛争の影響による原料高が依然として続いている。値上げも実施しているが、それでも追い付かない状況。1パック当たりの重量減の商品もあり生産性も落ちている状況。	畜産食料品製造業
	流通、燃料、原材料、仕入単価の上昇により利益率が下がってきている。	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルス第7波の影響は少なからずはあったが、10月の値上げ前の仮需が補った形となった。但し、来月からはその分出荷数量の減少が見込まれる。また、エネルギーの高騰や原材料の高騰、円安等のマイナスはこれからも終息しないと思われるため厳しい状況にある。	酒類製造業
	リスク増大、円安拡大に伴う日本回帰の進展。	金属素形材製品製造業
	原材料や電気・運送費などの高騰による製品価格への転嫁が進まない。原材料費分の値上げは認めるが、加工費など人件費や他の経費にかかる部分は値上げが認められない。材料費分の値上げでは利益を出すどころか定期昇給や賞与などには対応できない。なぜ、人件費アップのための値上げが認められないのか大企業の考え方が理解できない。	金属製品製造業
	新型コロナウイルスから始まり、現在ではロシア・ウクライナ情勢悪化と続き、計り知れない社会状況の中で、新規事業ではなく積み立てたエネルギーを活かして継続していきたいと思っている。	印刷業
	売上は伸長しているが、原材料・光熱費高騰により伸び悩み。取引先への価格転嫁は厳しい状況で、社内にて経費削減が必須。	その他の鉄鋼業
	昨年に比べ今夏の暑さの長期化により、8月の売上は増加したが、仕入れ原価の上昇による値上げ分も影響している。	自動車付属品製造業
	半導体が入らず、物が作れません。今年6月に頼んだ半導体(電源)の回答が届きましたが、2024年4月との回答。どうしようもありません。	設備製造業
	価格改定は少しずつではあるが了承してもらい値上げをしているが仕入れ価格も上がるため利益確保は難しい。10月より最低賃金があがるため人件費は確実に増える。効率よく仕事を進めるためにも従業員間のコミュニケーションは欠かせない。健康経営もからめてお互いを知るために「私の健康宣言」を掲示している。	金属製品
人の動きが活発化し始め、お出掛け着など秋物衣料は好調に推移している。3連休は台風の影響で大きく客数を落としてしまった。売上が伸長しているものの電気代などの高騰により経費が利益を圧迫している。	大型小売店	

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	<p>コロナ前と比較売上が伸びない中、テナント各社における概況としては、在庫管理体制見直しによる利益体質への変革傾向が見られる一方、まだそこに着手していないテナントもあり、テナント間での差が見られ始めている。同時に、世間ではESG経営が企業評価指標として重視される中、SDG'sへの取組みにより商品開発やサステナブルな原材料にコストがかかっている状況が見受けられる。</p>	各種商品小売業
	<p>全般的な外出ニーズ継続し、人流増加傾向で被服・雑貨中心に好調も、2週連続3連休の台風影響で水をさすかたちとなる。</p>	百貨店
	<p>仕入れ値の値上げに売値の値上げが追いつかない。電気や燃料等への調整や補助をして欲しい。</p>	各種商品小売業
	<p>感染症の影響について、飲食店や繁華街での営業を主とする顧客への販売は下げ止まり、復調を期待するというよりは別の方法でリカバリーしていく方針で動いている。実際に好調であるのは近場の観光地や販売店など。柏市は人口があるからなせる部分もあるのかマイクロツーリズム関係は好調なのかもしれない。売上は何とか維持できても包装資材など原価上昇でなかなか利益が出にくいところ。</p>	食料卸売業
	<p>貿易、特に輸出に関しては円安の影響も有り好調に推移、しかし納期の大幅な遅延、コストプッシュ型インフレの影響を多分に受け(商品代金、国内陸送費、通関諸費用、船賃)利益自体は寧ろ下落基調。コロナ以降輸入事業も始めたが、こちらは円安とコストプッシュ型インフレの影響をもろに受け、現在は停止中。輸出事業に関して消費税の還付を税務署から受けるのだが、通常3週間前後で還付される消費税が、2か月経過した今でも還付されておらず、本日事情説明と経過説明を受けるために税務署へ来所。理由は柏税務署で処理していた業務を東京・上野に移管したとの事だが、同業他社の他都市で還付請求している平均還付日数が2~3週間のところ、2か月以上経過した今でも還付されないのはどういふことか。来月中旬には処理出来るのでは?という返答だが、それでは期末決算より還付が遅いという事になる。現在キャッシュフローを月あたり3~4回転させている状況で、すでにこの還付分の金額で2億円の売上及び遺失利益となる計算である。売り上げと利益を減失させている事に強烈な憤りと喪失感を禁じ得ない状況である。</p>	自動車卸売業
	<p>円安の影響で自動で販売価格が上がっていて、売り上げは増えているが、利益は微増。物流業界全体的に、そこまで悪くはないので、何とかなっていますが、ロシアと中国が引き続き不気味で、アメリカ経済の先行きも分からず、アジア圏が通貨安になっているので、世界的な経済の先行きが不透明。今年度は何とか持って貰いたいです。円安は長期化しそうですね。</p>	産業機械器具卸売業
	<p>涼くなったからか、9月になって客足が少し戻って来た感がある。購買意欲も少し改善し、客単価が上昇した。8月と9月の柏市とPayPayのコラボキャンペーンにより、PayPay支払いが通常月の2倍以上となった。そのため現金収入が減り、PayPayからの入金タイミングも遅いため資金繰りに影響が出るなど、あまり店のような小売事業者にはメリットが無いように感じた。</p>	ペット用品小売業
	<p>天候の不順により作物の生育不足等、商品不足が影響。今後も懸念される。</p>	各種食料品小売業
	<p>原材料の高騰が深刻。10月から更なる値上げに苦慮。</p>	洋菓子店
	<p>9月は柏市のペイペイ効果で売り上げが上がりました。</p>	洋菓子店
サービス業	<p>空き家の売却、管理の相談や、相続に関する引き合いが増えている。買いたいというお客様はコンスタントに入っている。資材高騰の影響は建築費の上昇に影響している。</p>	不動産管理業
	<p>お祝いなどでの家族利用の問い合わせが増えているが、会社関係での利用はまだ先行き見えず。</p>	日本料理
	<p>2020年度に小学5、6年生の英語に成績が付くようになってから、英検を中心とした講座の受講率が上がってきていたが、その一方で、小学生の国語力の低下が非常に気になっていた。語彙力の不足に加えて、論理的な思考力の低下が他の科目の学習にも影響を与えていたため、昨年度から小学生の論理国語講座を作ったところ、最近ようやく保護者の間で認知度が上がり、少しずつ受講者が増えてきている。</p>	学習塾
<p>少しずつコロナの影響から抜け出し、イベント・レンタルの仕事予約が入りだしました。</p>	不動産代理業・仲介業	

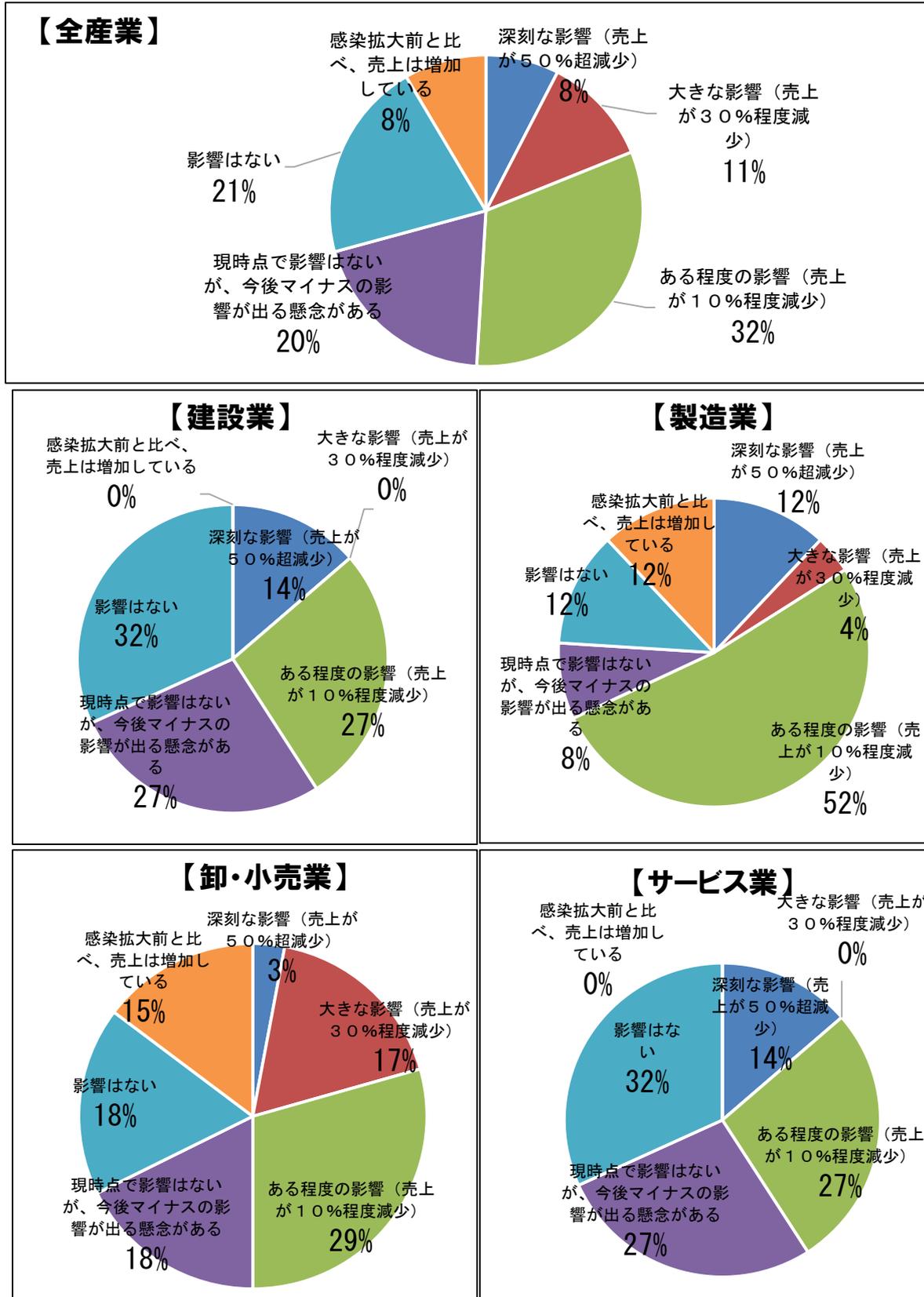
【業種別】業界内トピックス

	今後、海外政情にも影響を受ける可能性がある	土木建築サービス業
	計画アドバイザー業務（顧問業）につき業績に変動なし	専門・技術サービス業
	福祉事業のため安定経営ができています	福祉サービス業
	光熱費、消耗品、耐久消費財の上昇が予想以上で進んでいる。当社も値上げを行うが客離れが起きないか不安ではある。	ゴルフ練習場
	今後の維持管理コストの上昇が心配	不動産賃貸・管理業
	大きな変動はなく、例年通りの流れです。	家事サービス業

附帯調査結果

新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



調査要領

調査期間

令和4年9月26日 ～ 令和4年10月5日

調査対象

柏市内151事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	151	106	70.2%
建設	34	22	64.7%
製造	36	25	69.4%
卸・小売	46	34	73.9%
サービス	35	25	71.4%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				